



仙波糖化工業株式会社

証券コード：2916

個人投資家様向け会社説明会資料

2019年9月14日

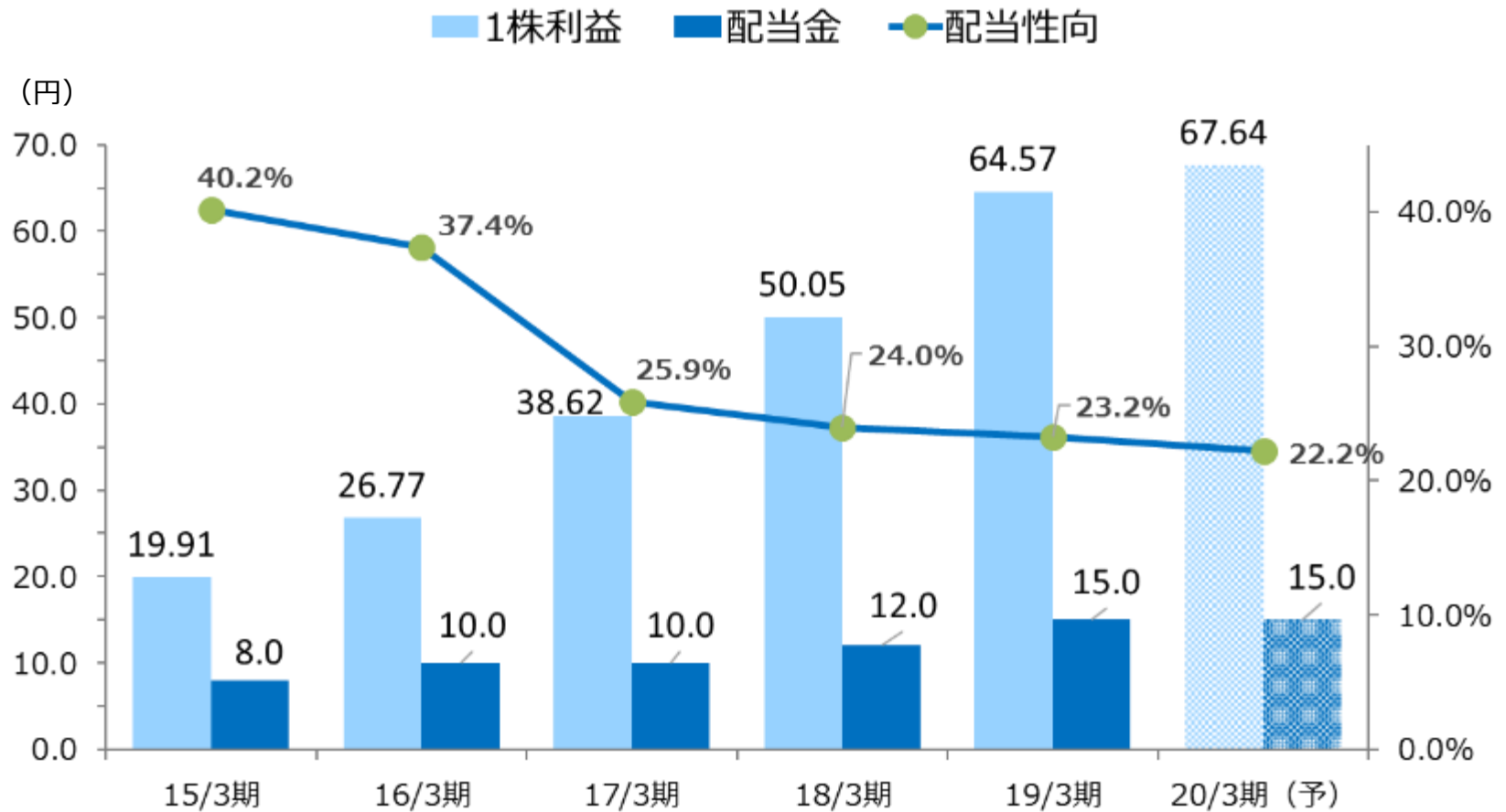
目次

I.	株主還元	P 2
II.	会社概要	P 5
III.	還元原資の最大化に向けて	P16
IV.	業績予想	
	(参考資料)	P31

I . 株主還元

配当金

前期は2年連続で増配



株主優待

対象となる株主様

9月30日現在、**5単元（500株）以上保有**の株主様が対象。

2019年度の優待品

3年未満保有の株主様

自社製品 **3,000円相当**



3年以上保有の株主様

自社製品 **5,000円相当**

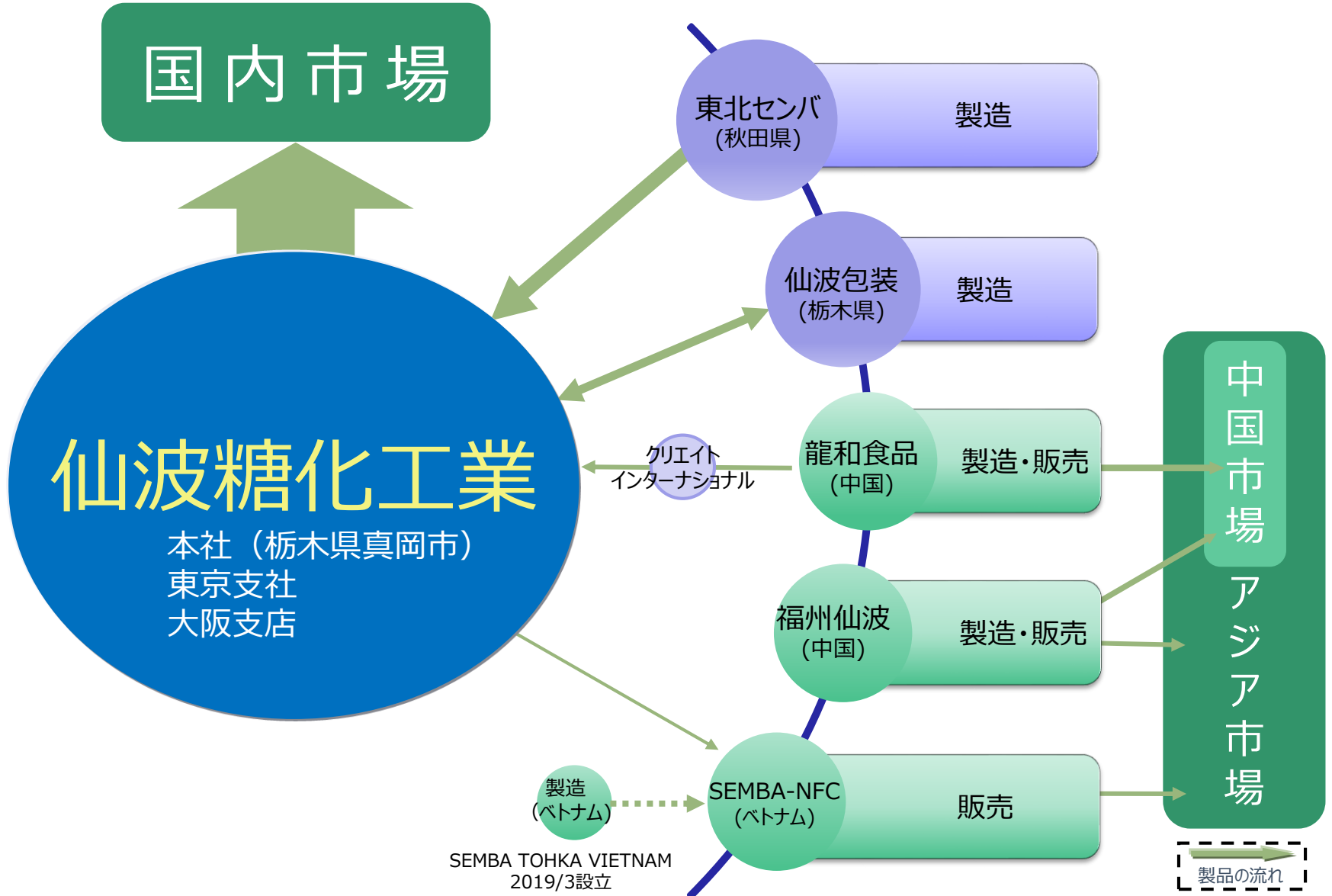


Ⅱ. 会社概要

プロフィール

社名	: 仙波糖化工業株式会社
創業	: 昭和21年10月4日
代表者	: 代表取締役社長 小林 光夫
所在地	: 栃木県真岡市並木町2丁目1番地10
資本金	: 15億 50万円 (2019年3月末現在)
売上高	: 205億55百万円 (2019年3月期)
発行済株式数	: 11,400 (千株)
従業員数	: 544名 (連結) (2019年3月末)
主な事業内容	: カラメル色素・焙焼製品等のカラメル製品、粉末茶・粉末醤油・粉末山芋・凍結乾燥野菜等の乾燥製品類、コーンスープ・粉末ソース・味噌汁・小麦粉加工品等の組立製品類、冷凍山芋・冷凍和菓子等の冷凍製品、加工食品素材などの製造販売。

当社グループ



食品の「色・味・香・旨」を演出する食品素材会社

こんなところに

- カスタードプリン、炭酸飲料・コーヒー牛乳 にも…



- インスタントラーメン にも…



- 粉末茶 にも…



- インスタントコーンスープ にも…



- 即席味噌汁 にも…



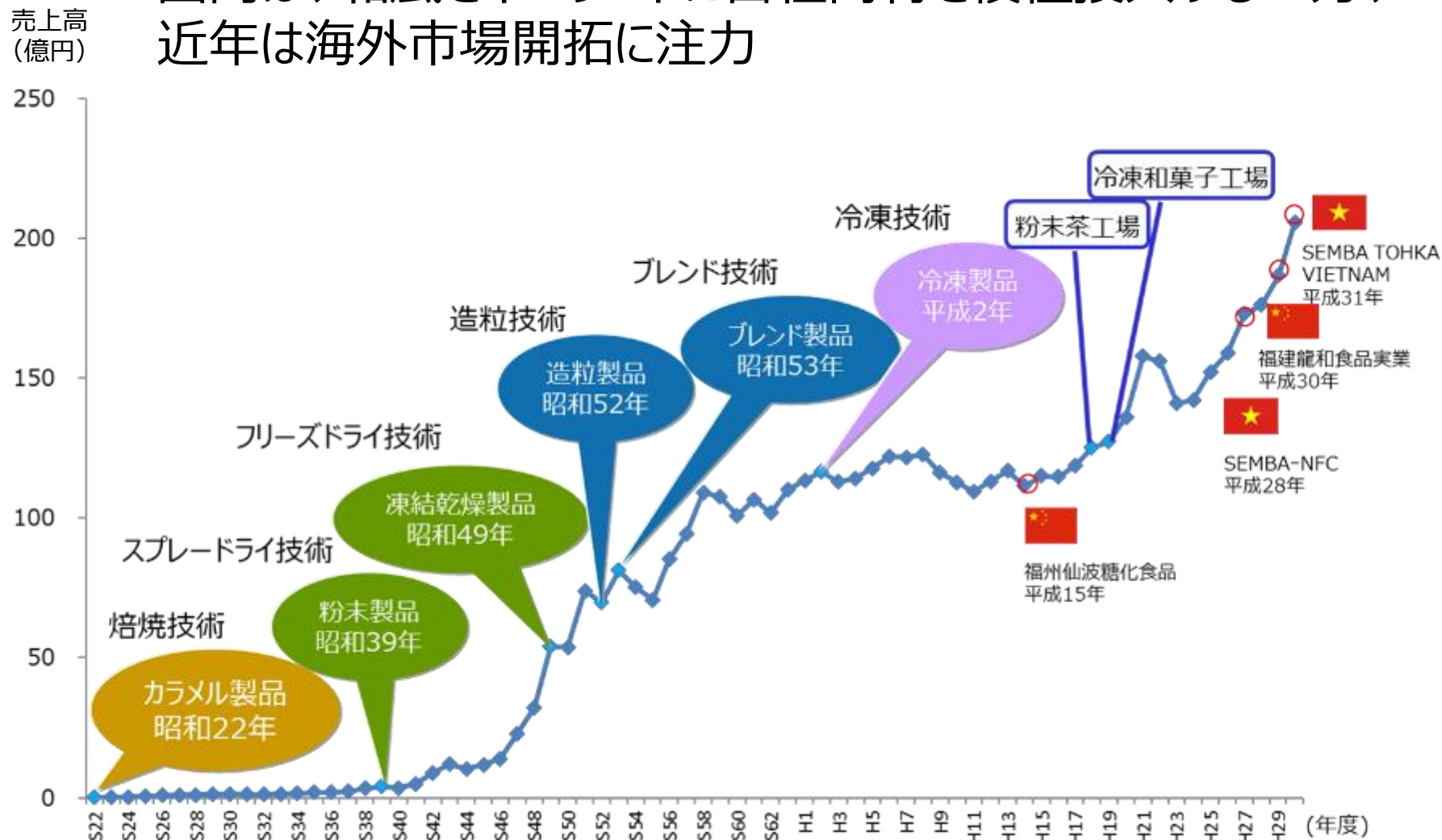
- とろろそば にも…



食品メーカー・消費者向け**自社商材**及び**受託商材**の製造・販売

当社の業容拡大の歴史

国内は、和風をキーワードに自社商材を積極投入する一方、近年は海外市場開拓に注力



2019/3期の収益状況

製品群別売上構成

カaramel製品

18.6%

乾燥製品類

(粉末製品・凍結乾燥製品)

32.5%

連結売上高
☆ 205億円

連結営業利益

☆ 10.7億円

26.0%

組立製品類

(造粒製品・ブレンド製品)

6.1%

冷凍製品

(冷凍山芋、冷凍和菓子)

16.8%

その他

(注) ☆印は過去最高

- ✓ 創業商材。国内シェアはトップ。着色用と一般食品用に大別。
- ✓ 高付加価値のデザート・シラップ向け新製品開発に注力。
- ✓ 海外顧客の取り込み強化で成長を目指す。

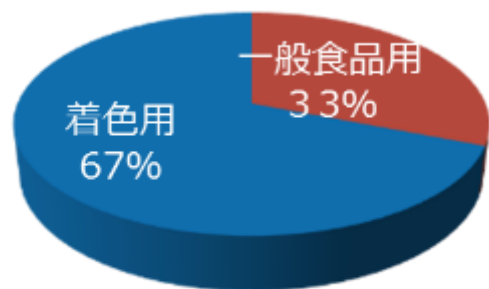
着色用

清涼飲料やアルコール飲料、ソース、カレーなど

一般食品用

・プリン等のデザート向け主力
バウムクーヘンなど高級洋菓子
向け需要が拡大

用途別カラメル製品売上構成



(2019/3期)

食品向け製品例

【カラメルタブレット】

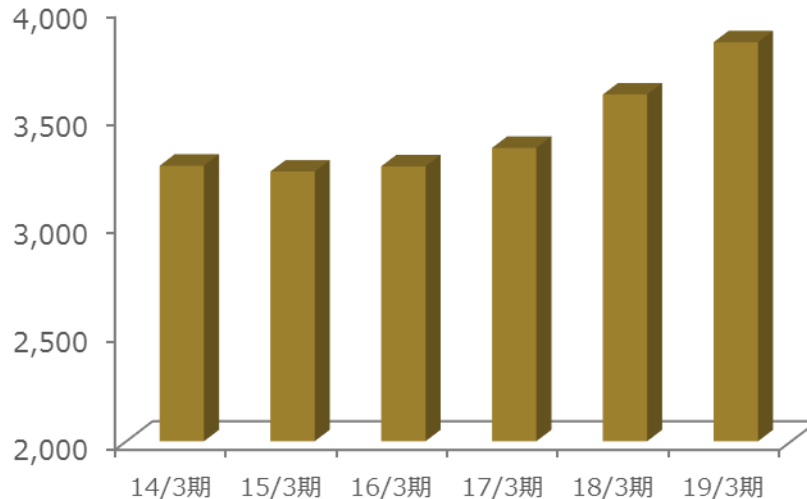


(プリン用)

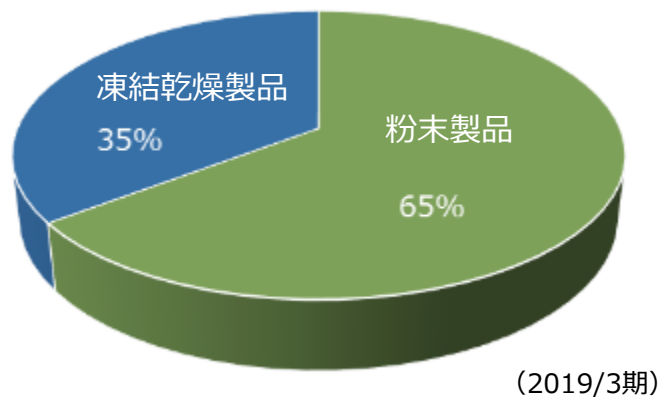
(プリン用・ビター)

カラメル製品売上推移

(百万円)



- ✓ 売上高の約80%は食品メーカー向け。
- ✓ 粉末製品は、粉末茶や粉末調味料（味噌や醤油）などを手掛ける。
- ✓ 凍結乾燥製品は、野菜ブロックや粉末山芋が主力



当社の乾燥製品製造技術

- ①スプレードライ技術(SD)
- ②フリーズドライ技術(FD)
- ③ドラムドライ技術(DD)
- ④エアードライ技術(AD)

凍結乾燥製品例

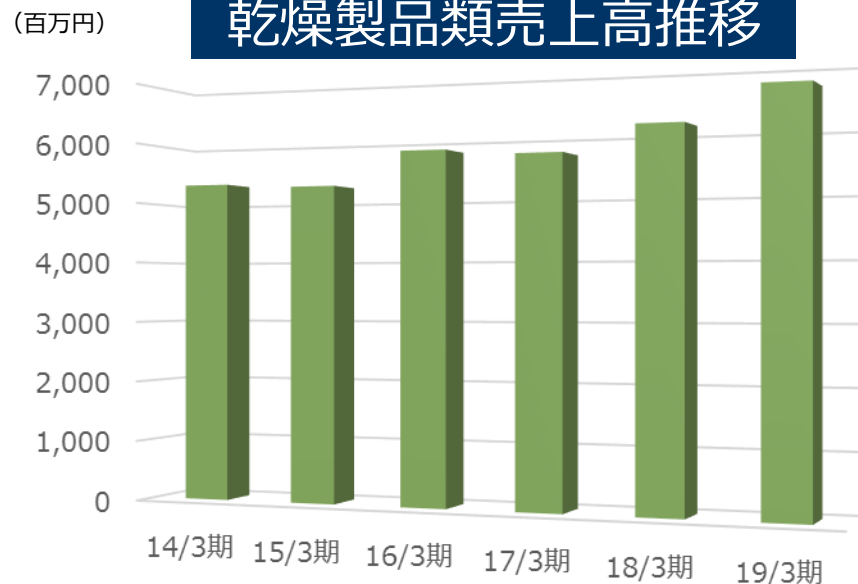


【野菜ブロック】



【本とろろ フリーズドライ】

乾燥製品類売上高推移



聖 シリーズ 【煎茶】【ほうじ茶】



稀 シリーズ 【煎茶】【ほうじ茶】



【紅茶】



(デインブラ&アッサム)

【玄米茶】



【麦茶】



【ラテ茶】



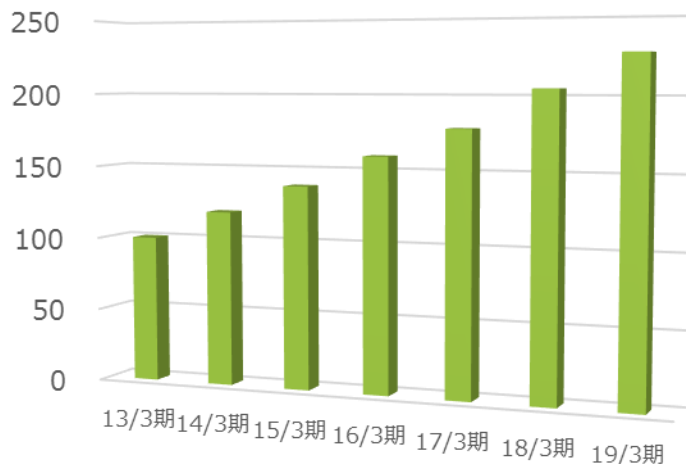
(宇治抹茶ラテ)



(ほうじ茶ラテ)

業務用粉末茶は業界2位

粉末茶売上推移
(13/3期=100)



【海外市場向け】



(抹茶ラテ)



(フルーツラテ)



冷凍和菓子

メディアケア市場向け中心に、約50種類を販売



その他(海外)

中国外食大手向けの冷凍デザートを受託品中心



【タピオカ】



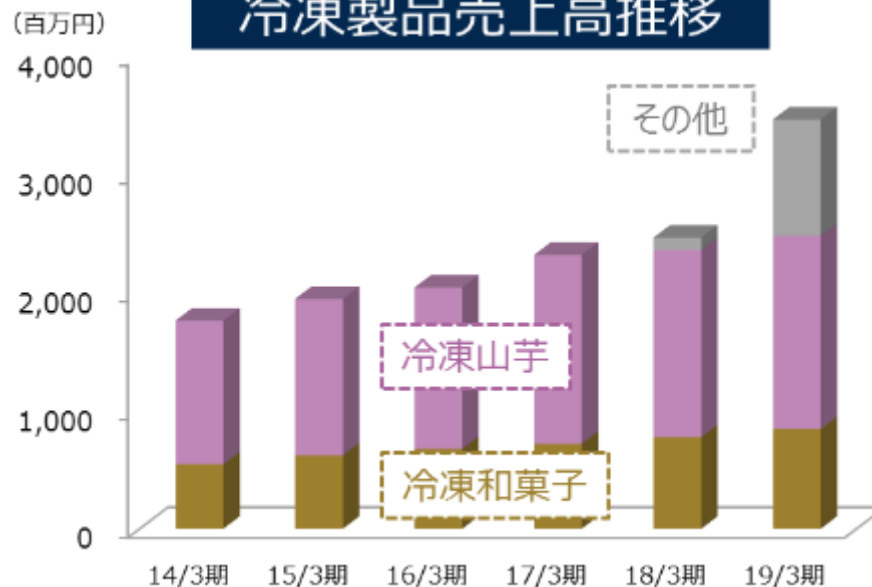
【ライチゼリー】

冷凍山芋

業務用・CVS向け中心。取扱量は業界2位



冷凍製品売上高推移



- ✓ 造粒製品とブレンド製品とも受託加工が中心。
- ✓ “溶け易く”などのキーワードで提案営業を強化。
- ✓ 現在は、スポーツサプリなどの健康食品関連が牽引。

造粒製品

スープ類、健康食品、
スポーツ飲料、ココア等

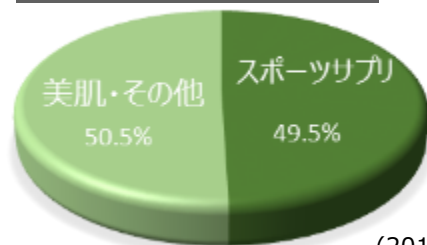


ブレンド製品

小麦粉ミックス、唐揚げ粉、
みそ汁、粉末エキス等

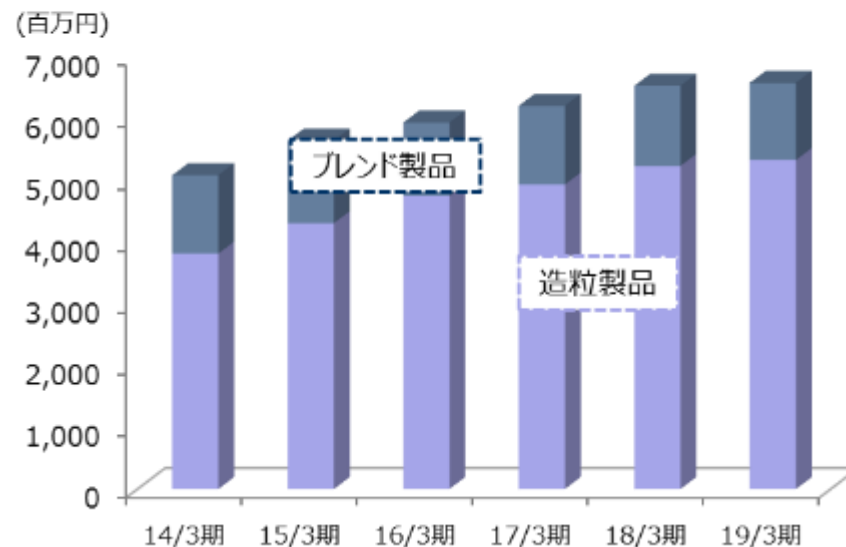


健康食品の売上構成



(2019/3期)

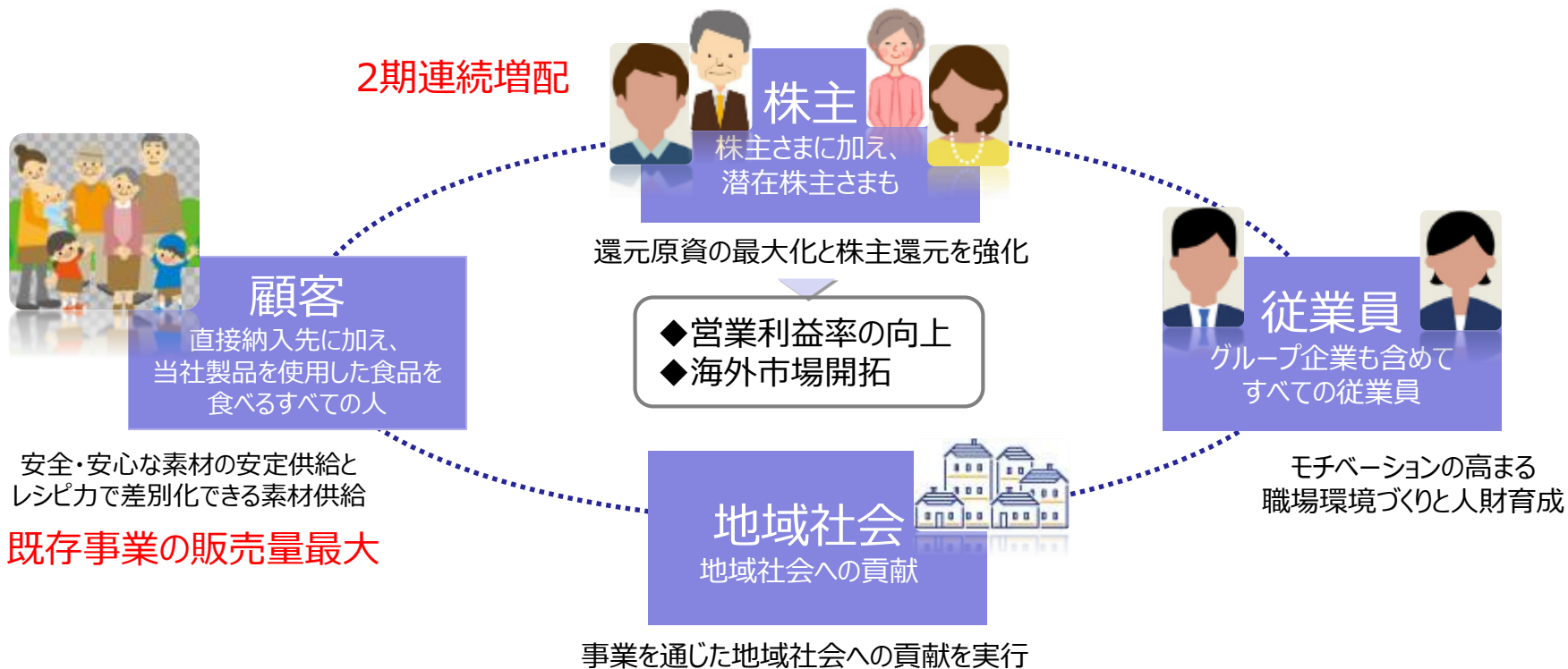
組立製品類売上高推移



Ⅲ. 還元原資の最大化に向けて

すべてのステークホルダーからの信頼を拡大

100年企業に向けた強固な基盤を構築



より良いものを作り、顧客信頼度を向上させ、
収益を伸ばすことで株主様、従業員、地域社会への還元を増やす
ブランド力を向上させ100年企業に向けての足場固め

基本戦略

グループ経営力強化

- 海外子会社管理強化
- 個別経営からの脱却

海外市場開拓

- 中国市場対応
- 東南アジア市場対応

自社商材拡販

- 提案営業強化
- 開発強化

目標

営業利益率向上と利益拡大の両立を目指す



営業キャッシュフローの最大化を目指す

目的 成長投資資金の確保と還元強化

注) 営業キャッシュフロー = 営業利益 + 減価償却費

前期の重点施策

基本戦略

✓ グループ経営力強化

- ・龍和食品子会社化
- ・製品ポートフォリオ見直し

✓ 海外市場開拓

- ・ベトナム子会社設立(2019/3月)

✓ 自社商材の拡販

+

✓ 構造変化への対応強化

- ・働き方改革の準備
(工場勤務体制の見直しなど)
- ・物流改革プロジェクトの推進
(福岡で新営業倉庫稼働)

今期の重点施策

① 海外子会社の管理体制強化

経営体制

- ・中国事業管掌役員が龍和食品の董事長に就任
- ・ベトナム事業管掌役員がベトナム子会社の社長就任

管理体制

- ・海外子会社の期中平均レートへの変更
- ・中国子会社の新会計基準導入準備

② 海外収益基盤の強化・拡充

中国子会社の収益基盤拡充

新工場立上げ

龍和食品及び福州仙波のシナジー追求

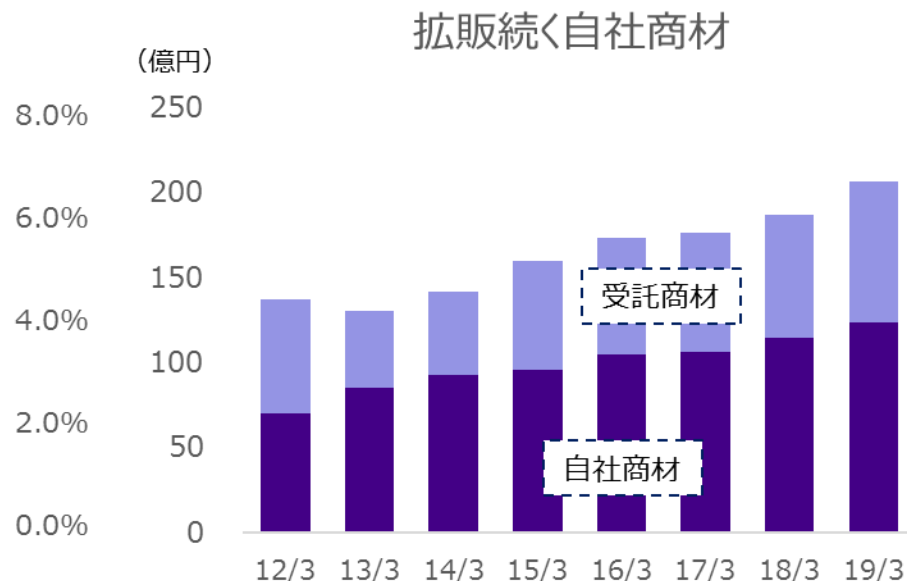
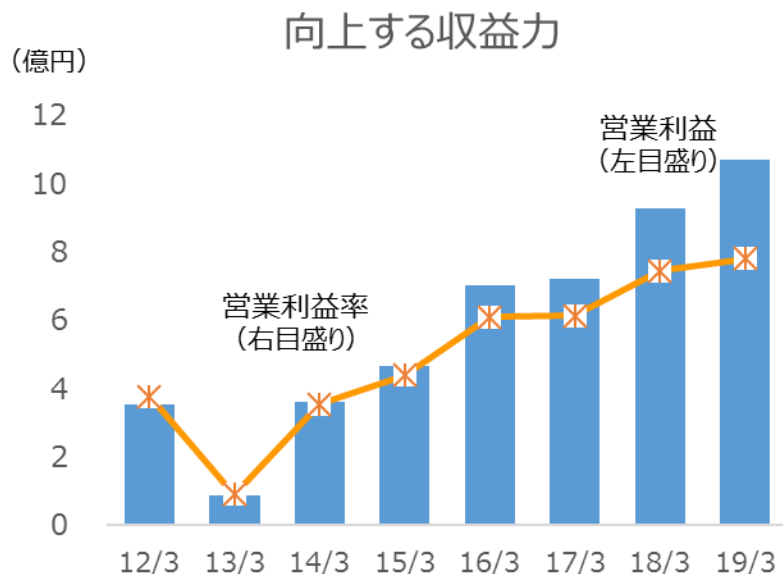
東南アジア市場の本格展開準備

新工場建設

2020年度中の完成を目標

③ 働き方改革の推進

自社商材拡販で営業利益と利益率は向上



龍和子会社化で海外売上比高は拡大したが、
グループ経営力強化はこれから

	18/3期 (百万円)	19/3期 (百万円)	伸び
海外売上高	264	1,497	5.7倍
(海外売上比率)	1.4%	7.3%	+5.9ポイント
海外子会社	225	1,465	6.5倍
輸出	39	32	△7

物流改革プロジェクトの推進

【課題】低い九州近郊エリアの販売量

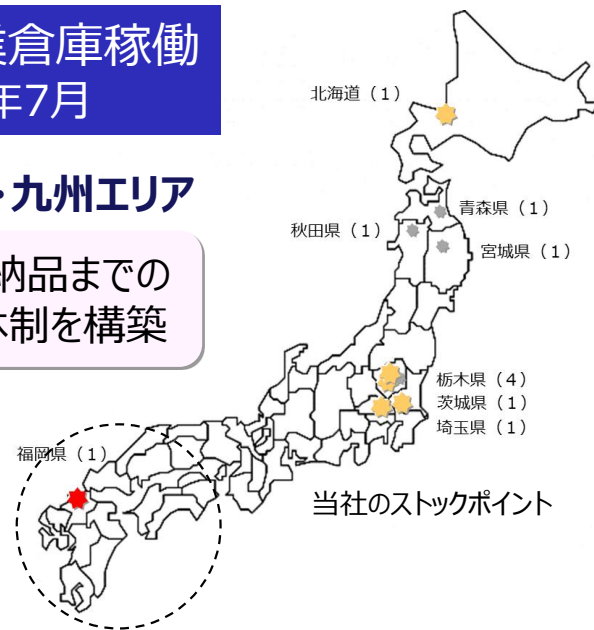
原因分析

- ✓ 物流費が高む九州近郊エリアへの配送
- ✓ 納品リードタイムの長期化
- ✓ 自然災害時などの供給対応懸念

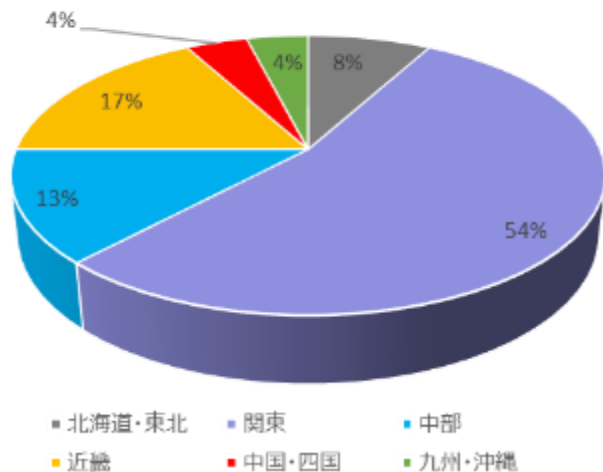
福岡新営業倉庫稼働 2018年7月

中国・四国・九州エリア

受注から納品までの
中1日体制を構築

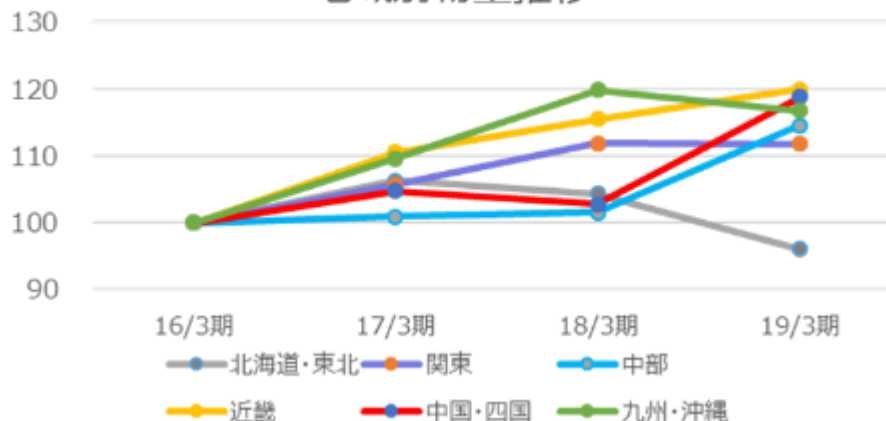


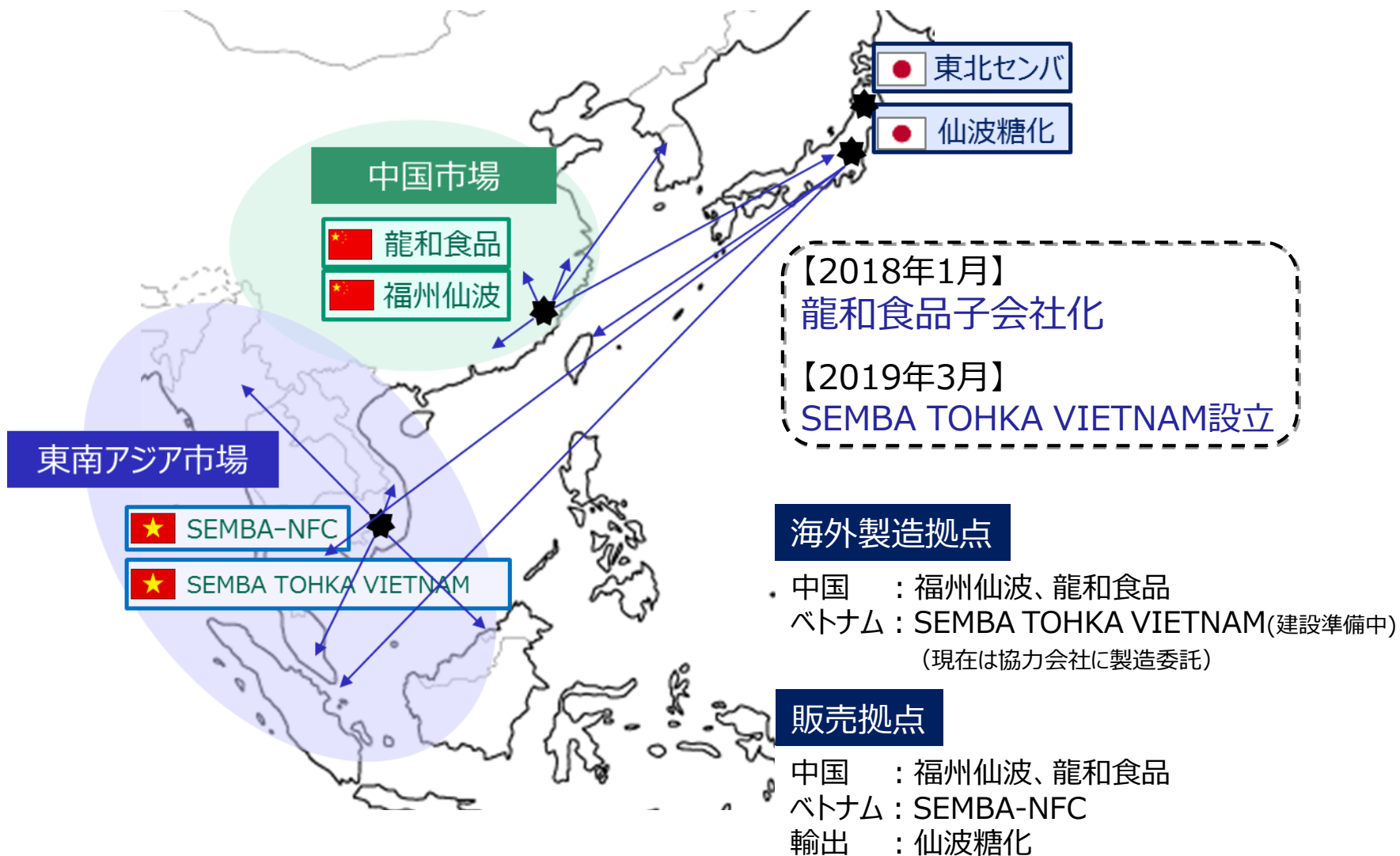
地域別販売量 (19/3期)



(16/3期=100)

地域別物量推移





《当面の方針》

① 龍和食品、福州仙波の新工場立上げ

政府の商業地区への移行決定で工場を移転

当時、関連会社であった龍和食品と当社子会社の福州仙波が共同での工場移転計画を策定。
その後、龍和食品の株式を買い増し、子会社化。

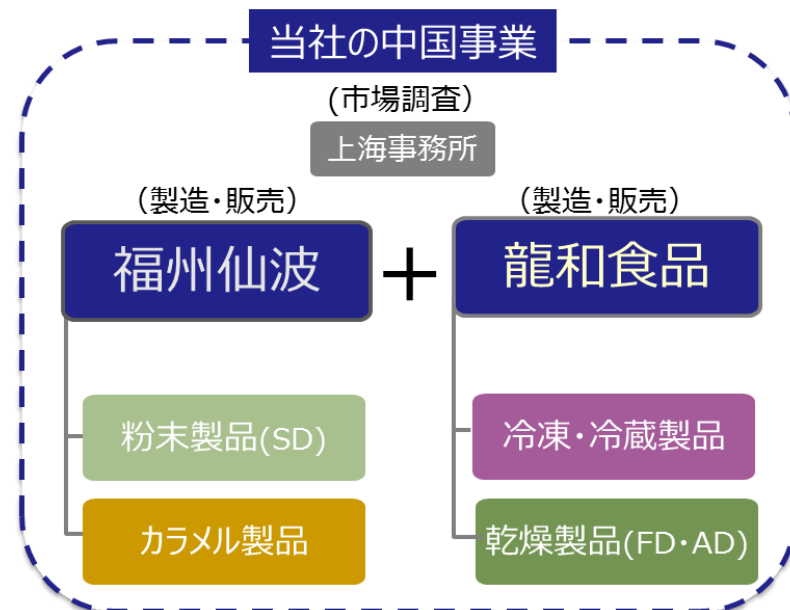
新工場建設進捗状況



2019年8月

② 龍和食品と福州仙波のシナジー効果追求

- ✓ 一体運営による中国市場の開拓強化
- ✓ 原料調達ネットワークの有効活用
- ✓ 食の安全管理体制の更なる強化
- ✓ グループ力を活かした高付加価値品投入



注) SD : スプレードライ、FD : フリーズドライ、AD : エアドライ

子会社化初年度の課題認識

前年度の営業赤字から

龍和食品の連結化初年度は、計画を上回り、営業黒字転換したが・・・

- ①高い季節商材比率 ……上期⇒下期売上高は▲34%の変動
- ②旧式会計基準 ……出荷時に売上計上とならず、コスト管理と収益認識にズレ
- ③期末日レート採用 ……前下期の見かけ上の換算レートは大幅な円高。

初年度（前期）の施策

- ・製品ポートフォリオ見直し：低採算製品からの撤退（春雨、月餅、ちまきなど）
棚卸資産除却損として約380万元（約6,000万円）を計上

今期の施策

- ・期末日レートから期中平均レートへの変更
- ・新会計基準導入に向けた対応準備
- ・新製品投入を含めた季節要因平準化

名称：SEMBA TOHKA VIETNAM COMPANY LIMITED



目的：東南アジア向けの製造拠点

設立：2019年3月

資本金：1,327千米ドル

〈工場建設計画〉

- ・予定地はホーチミン市より約40km
- ・2020年度末の稼働開始を計画
- ・設備投資金額は10億円

〈製造予定品目〉

- ・食品素材
- ・食品添加物
- ・食品

販売担当：SEMBA-NFC

パートナーと共同での市場開拓

	海外プロモーション活動	展示品など
2017	タイの代理店主催の商談会	抹茶ラテ、カaramelシラップ、冷凍山芋、インスタント茶
	FABEX (日本)	抹茶ラテ、カaramelシラップ等
	Thaifex (タイ)	冷凍和菓子、冷凍山芋、カaramelシラップ、インスタント茶、抹茶ラテ
	Vietfood & Beverage (ベトナム)	抹茶ラテ、カaramelシラップ、冷凍和菓子
	Fi ASIA 2017 (タイ)	カaramelシラップ等
2018	タイの代理店主催の商談会	抹茶ラテ、カaramelシラップ、冷凍山芋、インスタント茶
	FABEX (日本)	抹茶ラテ、フルーツラテ、カaramelシラップ等
	台湾商談会(秋田県主催)	冷凍山芋、冷凍和菓子
	Japan Expo 2018 (ミャンマー)	抹茶ラテ、フルーツラテ、冷凍和菓子等
2019	タイの代理店主催の商談会	カaramelシラップ、カaramelクラッシュ、抹茶ラテ、冷凍山芋、インスタント茶
	Fi ASIA 2019 (タイ)	カaramelシラップ、カaramelクラッシュ、フルーツラテ、粉末調味料、エキス、乾燥具材
	FABEX (日本)	カaramelシラップ、カaramelクラッシュ、インスタント茶

今期の重点プロモーション

ベトナム新工場の立上げをにらみカaramel製品群の市場開拓に注力



前期トピックス

Japan Expo 2018 (ミャンマー)

(Yangon:10/27-29)

徐々に浸透するプロモーション等の成果

国名	商材	向け先
中国	どら焼き、カラメルシラップ 乾燥製品、冷凍製品	リテール、食品メーカー OEM商材、食品メーカー
シンガポール	どら焼き、 カラメルシラップ、カラメルクラッシュ 抹茶ラテ	日本食レストラン 食品メーカー OEM商材
タイ	冷凍山芋、 カラメルシラップ、カラメルクラッシュ カラメル色素 日本製のインスタント茶 抹茶ラテ (SEMBA-NFCブランド品) フルーツラテ	日本食レストラン、リテール 食品メーカー 飲料メーカー 日本食レストラン、リテール 日本食レストラン、リテール 食品メーカー
ベトナム	カラメルシラップ、カラメルクラッシュ 抹茶ラテ (SEMBA-NFCブランド品) フルーツラテ(SEMBA-NFCブランド品)	食品メーカー 日本食レストランなど リテール、現地カフェ
マレーシア	抹茶ラテ、カラメル製品	OEM商材
ブルネイ	抹茶ラテ	OEM商材
スペイン	粉末醤油	現地の食品メーカー
韓国	粉末茶	現地の食品メーカー
台湾	カラメルシラップ 抹茶ラテ	現地の食品メーカー OEM商材
香港	カラメルシラップ、野菜パウダー	現地の食品メーカー
ミャンマー	フルーツラテ	リテールなど
オーストラリア	カラメルクラッシュ	現地の食品メーカー

は海外子会社生産品 青字は2018年度の新規納入品

IV. 2020/3期業績予想

2020年3月期第1四半期決算概要

- ✓ 国内の天候不順要因などに加え、海外低調で売上高は前年割れ
- ✓ 営業利益は、原燃料コストや物流費上昇を吸収できず、40%減益

(単位：百万円、円)

	2019/3期 (1Q)		2020/3期 (1Q)		
	金額	前同比 伸び率	金額	前同比 伸び率	上期予想 進捗率
売上高	5,099	+9.3%	5,056	▲0.8%	47.3%
営業利益	391	+80.0%	235	▲39.8%	36.2%
経常利益	381	+79.7%	237	▲37.7%	37.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	247	+92.2%	124	▲49.6%	29.7%
一株純利益	21.72	-	10.95		

2020/3期業績予想

連結売上高、連結営業利益とも過去最高を更新予想



(参考資料)

沿革

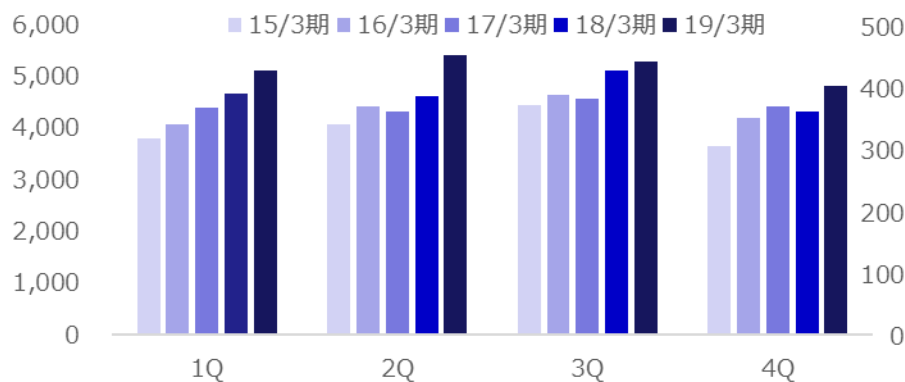
- 1946年 10月 栃木県真岡市に創業、カaramelの製造販売開始。
- 1963年 5月 スプレー・ドライヤーを新設し、粉末食品の生産開始。
- 1967年 7月 茨城県水戸市に工場を新設。
- 1971年 11月 真岡工業団地に真岡第二工場を新設。
- 1972年 5月 太陽食品包装株式会社設立。(現：仙波包装株式会社)
- 1974年 3月 真岡第二工場の第2期増設完了。フリーズ・ドライ製品の生産開始。
- 1977年 9月 本社工場に造粒設備を新設。
- 1979年 9月 スプレー・ドライヤー及び造粒設備増強のため真岡第三工場を新設。
- 1988年 9月 水戸工場を真岡第三工場へ移転。
- 1990年 7月 株式会社東北センバを設立し、冷凍山芋の生産開始。
- 1991年 1月 福建龍和食品実業有限公司を共同で設立。
- 1994年 11月 資本金13億4,050万円に増資。日本証券業協会に株式を店頭登録。
- 2001年 8月 資本金15億50万円に増資。
- 2003年 11月 福州仙波食品有限公司（現：福州仙波糖化食品有限公司）を設立。
- 2006年 4月 真岡第二工場に昆布エキス製造工場を新設。
- 2006年 9月 真岡第二工場に粉末茶製造工場を新設。
- 2007年 4月 冷凍和菓子の生産開始。
- 2007年 8月 真岡第二工場に鰹節エキス調味料設備を新設。
- 2011年 5月 真岡第三工場スプレー・ドライヤーS&B。
- 2012年 11月 株式会社東北センバ大館新工場稼働。
- 2016年 10月 SEMBA-NFC設立。
- 2017年 4月 真岡第二工場焙焼製品新工場稼働。
- 2018年 1月 福建龍和食品実業有限公司を子会社化。
- 2019年 3月 SEMBA TOHKA VIETNAM設立。

- ✓ 10%増収、16%営業増益。
- ✓ 既存事業の増収効果に加え、龍和食品の新規連結効果も寄与。
- ✓ 中国子会社の製品ポートフォリオ見直しなどで、営業利益は計画未達。

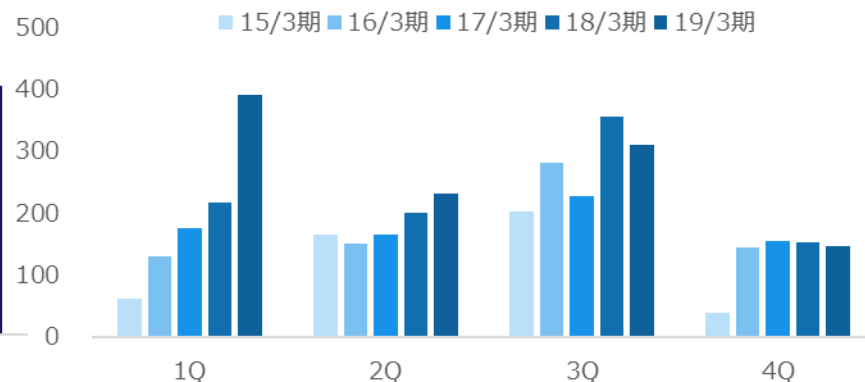
(単位：百万円、円)

	2018/3期		2019/3期			
	金額	前期比	金額	前期比	従前予想	予想比
売上高	18,675	+6.0%	20,555	+10.1%	20,800	△245
営業利益	926	+28.6%	1,078	+16.3%	1,150	△72
経常利益	865	+18.9%	1,019	+17.8%	1,120	△101
親会社株主に帰属する 当期純利益	569	+29.6%	735	+29.0%	700	+35
1株純利益	50.05	-	64.57	-	61.49	+3.08
設備投資額	785	△227	930	+145		
減価償却費	764	△16	932	+167		
研究開発費	283	+16	319	+36		

四半期売上高推移



四半期営業利益推移



(単位: 百万円)

47	2017/3期				2018/3期				2019/3期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	4,371	4,303	4,549	4,399	4,665	4,594	5,100	4,315	5,099	5,395	5,268	4,792
カaramel製品	818	865	895	776	892	883	965	861	972	940	1,052	867
乾燥製品類	1,359	1,374	1,512	1,465	1,469	1,468	1,660	1,525	1,626	1,635	1,771	1,647
組立製品類	1,207	1,092	1,241	1,393	1,255	1,241	1,578	1,158	1,206	1,400	1,418	1,310
冷凍製品	647	666	534	467	692	735	551	483	985	1,080	703	686
その他	338	304	369	297	355	268	343	287	308	340	324	282
営業利益	174	165	226	155	217	200	356	153	391	231	309	146

【2019/3期実績】

要約貸借対照表

(単位：百万円)

	2018/3末	2019/3末	増減額
流動資産	10,903	11,850	+ 946
現金及び預金	2,016	3,153	+ 1,136
受取手形及び売掛金	4,498	4,733	+ 234
棚卸資産	3,931	3,699	△232
固定資産	8,830	8,806	△23
有形固定資産	6,553	6,499	△53
無形固定資産	254	253	△0
投資その他資産	2,022	2,052	+ 30
資産合計	19,733	20,656	+ 922

棚卸資産	△232百万円
・商品・製品	△336百万円
・仕掛品	+163百万円
・原材料・貯蔵品	△58百万円

流動負債	8,462	8,808	+ 345
支払手形及び買掛金	3,163	2,813	△349
短期借入金	3,521	3,912	+ 391
固定負債	2,686	2,737	+ 51
長期借入金	1,089	1,173	+ 84
負債合計	11,149	11,546	+ 397
純資産合計	8,584	9,110	+ 525

有利子負債	+475百万円
・短期借入金	+391百万円
・長期借入金	+84百万円

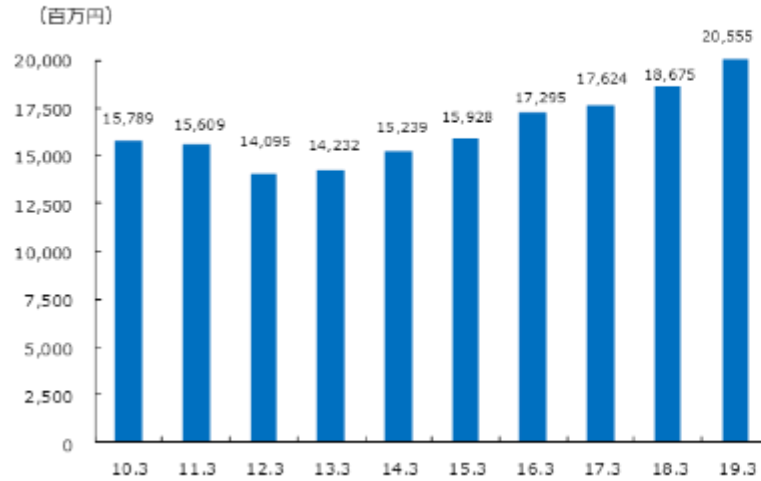
⇒自己資本比率 43.6% (+0.6ポイント)

(単位：百万円)

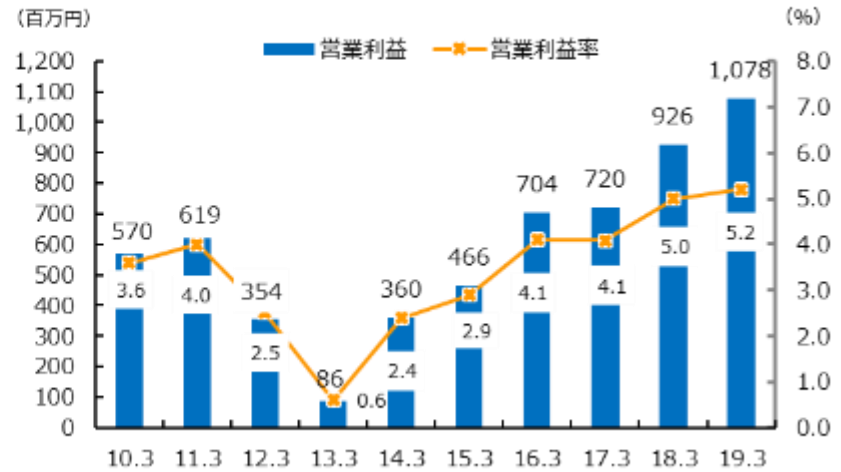
	2018/3期	2019/3期
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,108	1,700
税金等調整前当期純利益	854	1,019
減価償却費	764	932
売上債権の増減額（△は増加）	△229	△337
たな卸資産の増減額（△は増加）	△599	205
仕入債務の増減額（△は減少）	209	△212
法人税等の支払額	△190	△335
投資活動によるキャッシュ・フロー	△947	△902
有形固定資産の取得による支出	△941	△828
財務活動によるキャッシュ・フロー	△14	348
有利子負債の純増減額	130	524
配当金の支払額	△114	△136
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	△10
現金及び現金同等物 期中増減額	146	1,136
現金及び現金同等物 期末残高	2,001	3,138

主要財務データ（1）

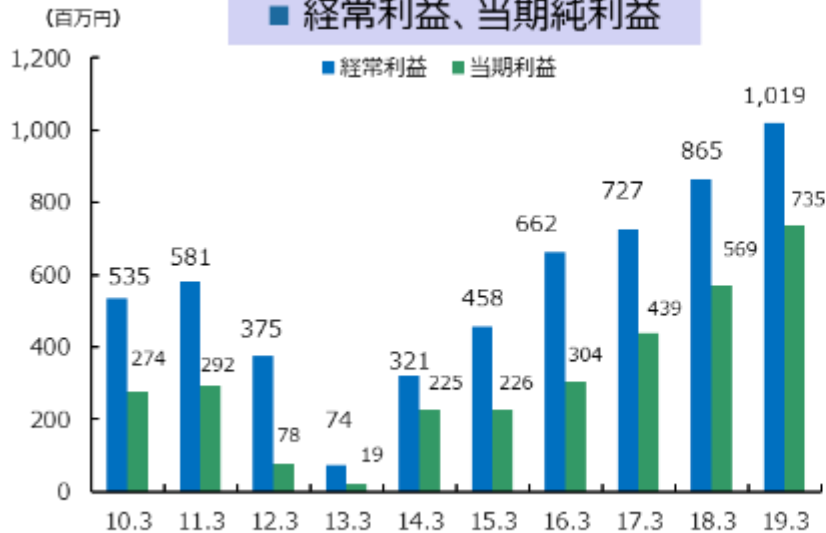
売上高



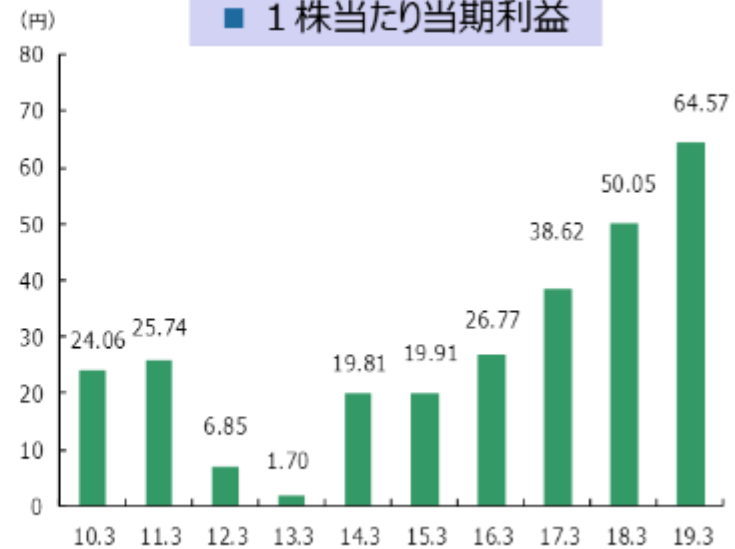
営業利益



経常利益、当期純利益

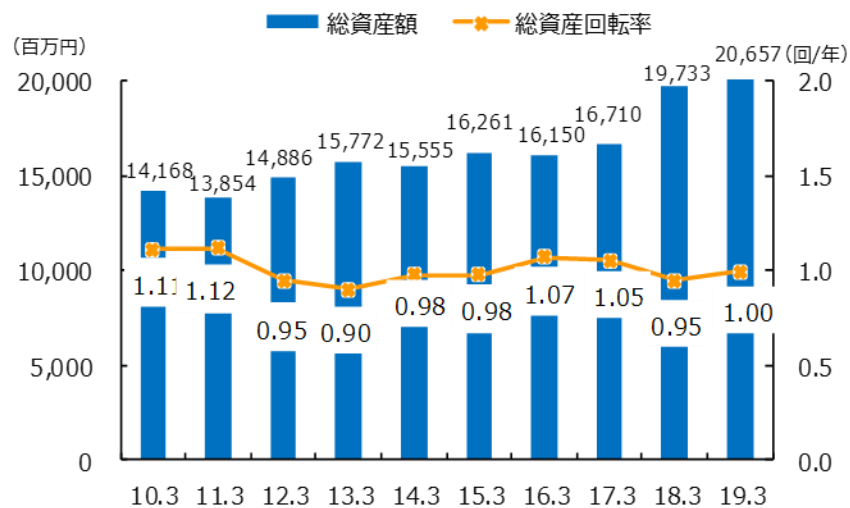


1株当たり当期利益

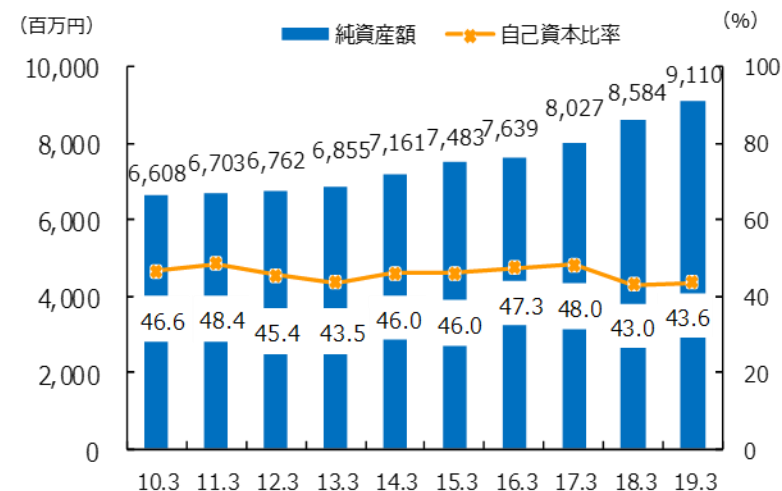


主要財務データ (2)

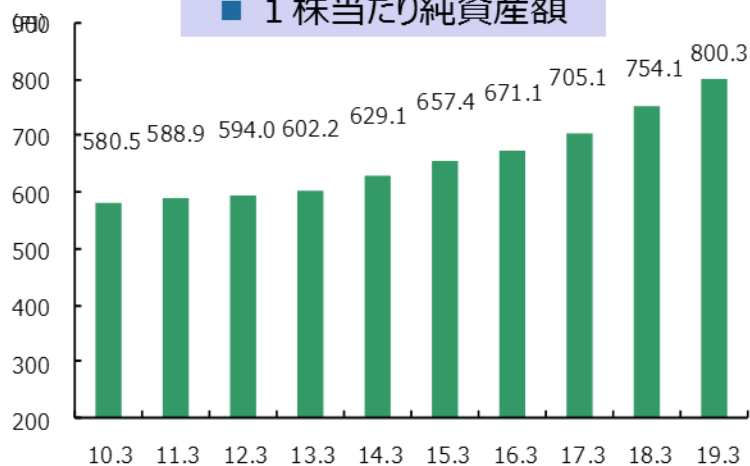
■ 総資産、総資産回転率



■ 純資産額、自己資本比率



■ 1株当たり純資産額



〈お問い合わせ先〉
仙波糖化工業株式会社
総務部 IR担当

TEL: 0285-82-2171

FAX: 0285-84-3283

E-Mail : ir@sembatohka.co.jp

当社IRサイトもご覧ください。 <https://www.sembatohka.co.jp/>

本資料には当社の計画、見通し、経営戦略および経営方針に基づいた「将来予測に関する記載」が含まれております。この「将来予測に関する記載」には発表日時点までに入手可能な情報に基づいた経営判断や前提が述べられております。そのため諸与件の変化により、実際の業績は「将来予測に関する記載」とは異なる結果となる可能性があります。従って本資料における業績予想などの「将来予測に関する記載」が将来に亘って正確であることを保証するものではないことを、ご了解いただきますようお願い致します。なお、掲載内容について当社はあらゆる面から細心の注意を払っておりますが、それらには誤りやタイプミス等が含まれる可能性があります。